

## 平成 24 年度第 1 回

### 東御市地球温暖化対策地域推進協議会議事要旨

H24. 8. 31(金)9:30～11:30

庁舎別館第 1 会議室

#### 【出席者】

(委員:敬称略)

宮原 則子、大平 重利、笹平 英俊、関 正喜、関 幸枝、森 まり子、新田 詔三、  
中澤 亥三、萩原 猛、工藤 浩平、高橋 大輔

[欠席:山口 吉久、石川 昭隆、長谷川 岳大、高藤 圭一]

(事務局)

柄澤市民生活部長、土屋市民課長、勝山生活環境係長、大塚生活環境係主査

#### 【配布資料】

- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会会議次第
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会委員名簿
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会設置要綱
- ・資料 1 東御市地球温暖化対策地域推進計画 課別進捗状況
- ・資料 2 温室効果ガス削減量(短期目標達成状況 H23. 8 月)
- ・短期目標の評価と中期目標への計画策定スケジュール

## 【議 事】

### 1. 開 会

### 2. 委員の委嘱

高橋大輔委員、笹平英俊委員（任期：平成 24 年 8 月 31 日～25 年 3 月 31 日）

### 3. 正副会長の選出

会長：宮原則子委員、副会長：高橋大輔委員

### 4. 宮原会長、柄澤部長あいさつ

### 5. 会議事項

#### (1) 東御市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況について

事務局説明

説明資料 「資料 1 東御市地球温暖化対策地域推進計画 課別進捗状況資」

「資料 2 温室効果ガス削減量(短期目標達成状況 H23. 8 月)」

#### (2) 今後について

事務局説明

説明資料 「短期目標の評価と中期目標への計画策定スケジュール」

#### (3) 意見交換

### 6. その他

### 7. 閉 会

---

## 【内 容】

### (1) 東御市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況について

事務局

目的達成のために、委員の皆さまのご意見も取り入れながら進めてきました各施策メニューですが、順調に成果をあげているもの、達成までに届かなかったもの、すでに絶望的な施策も明確化してきております。新たな提案をご検討いただきたい。

新田委員

市では小水力やバイオマスについて単独で検討しているが、太陽光なども組み合わせて地域に適した使用目的を考えて導入していく必要がある。東御市は自然が豊かなので多くの可能性があると思う。

事務局

小規模発電によるエネルギーの地産地消については、地域の同意形成が必要と考えています。地域意見を取りまとめ、市内をさらに細分化したモデル地域の検討も考えていかなければいけないと感じています。

工藤委員

廃食用油の再利用について、近隣の市町村ではどのような状況か教えてほしい。

事務局

調査はしていません。バイオディーゼルや重油に代わる燃料として検討を行って見たが、現状では、利用していくことが難しいと分かりました。ただし、ただ廃棄しているのではなく、ペンキの溶剤として再利用されていますので、さらに市民へのお知らせをしていきたいと考えています。

荻原委員

廃食用油などのバイオディーゼルとごみ減量を合わせて、市民参加型の施策を展開できないか。ゴミ（特に生ゴミ）が減れば重油の使用量も減らすことができます。

事務局

市民主体を念頭に行政は計画を立案するも、推進が図られない現状であることは承知しています。ただし、ゴミ処理の広域化により削減施設の設置が今後求められていく中では、必要不可欠と思われる市民の同意や事業所の協力を得ながら、さらに推進が求められる重要課題であります。

また、どのようにゴミを減らすかについては、まず、現状のゴミの分析を早急にする必要も認識しております。

中澤委員

短期目標の最終年度を迎え、結局、全体のどのくらいの達成状況であるか。

事務局

数値化できる施策については、昨年度の会議でお示しした資料「資料 2 温室効果ガス削減量(短期目標達成状況 H23. 8 月)」をご覧いただくと、昨年中間の数値ではありますが、達成率は40%強といった状況です。本年度末を待って最終的な数字を集計いたします。

また、本日の会議の前に「庁内地球温暖化対策推進委員会」を開催しており、各課の施策について内部評価を依頼しております。

## (2) 今後について

#### 事務局（提案）

本年度は、短期目標の最終年度であります。委員の皆さまには、本計画の取り組み結果をどのように集約し、市民へ公表を行っていくのか、また、中期目標をどのように見直していくのかをご検討いただきたいと思います。まずは、事務局からスケジュールをご提案申し上げます。

評価については、宮原会長と高橋副会長、事務局で一定の評価方法を検討し、施策担当課へ評価を依頼していきます。中期目標については、委員の皆さま全員から見直し施策や新規施策のご提案を年内中に事務局へお寄せいただきたいと思いますと考えております。次回会議では、そうした結果や見直しを案として事務局がとりまとめて皆さんに提示いたします。

会議で決定した内容は、本推進計画に基づき、市へ報告し、市が「環境審議会」へ報告し助言をいただき、新計画の施策の実行へつなげていきます。

#### 中澤委員

評価方法は、市民に分かりやすく、計画に沿った実施項目を掲げられた具体的なものでお願いしたい。PRなどを目的とした間接的な施策は特に。

#### 関委員

時期計画には、達成目標の他に実施手段も明確に掲げる必要があると思います。

### **(3) 意見交換**

#### 宮原会長

太陽光発電をはじめ、事業所の皆さんも積極的な取り組みをされていると思いますが、状況は把握できていますか。

#### 事務局

本年度、新設した事業所向けの太陽光発電システム設置補助金（利子補給）は、PR不足もあって実績が上がっていません。しかしながら、市内でも太陽光発電システムを設置したいという発電事業者の動きも見えてきました。計画策定当初は、メガソーラーの誘致としてきましたが、国の法や施策の変更にともない、こうした民間事業者の動きと合わせた形で時期計画の策定も検討していきたいと考えています。

#### 関委員

我が社も発電事業を市内社有地で計画しています。

#### 新田委員

この会議ではたびたび意見しているが、事業所向けに「エコアクション」の導入促進を図っていきたい。これは、ISO14001に比べ事務及びコスト負担が軽減され、中小企業向けといわれている。現在の社会情勢では、各企業は生産性の向上が必須となっている。コストダウンは企業が生き残るためにも必要な条件でもある。

中澤委員

エコアクションに取り組み、地域へ発信することは環境配慮を行っている自社 PR にもつながり、普及促進が図っていけると感じている。

事務局

本計画には、貨物車の LP ガス化など事業所向けのさまざまな施策が盛り込まれています。そこで、実態や今後の意向を集約するため、施策担当の商工観光課と連携を取ってアンケートを実施していきたいと考えています。エコアクションについても意向をお聞きしたいと思います。

森委員

市民の普及啓発や教育は、広報に掲載しただけでは完全実施したことにはならないと思う。計画にある環境家計簿は市民参加型で、各家庭で取り組んでいただき回収をすれば教育と同時に削減実績にもつながっていくはずです。難しくない簡単なものを用意できたらと思います

関委員

私も家計簿をつけていました。前の月や前の年との比較により、増えた・減った原因も見えてきます。こうした取り組みが、市民一人ひとりの省エネ活動につながっていくはずです。

事務局

過去に1度広報で配布した結果、3名しか取り組んでいただくことができませんでした。また、県や様々な団体の様式を拝見させていただいてもいます。森委員や関委員のご意見をいただき、項目選定からご協力いただきたいと思います。

高橋副会長

こうした計画の公表は受け取る側の感じ方を意識したものにしていく必要があります。数字や文字ばかりでなく、その結果を見ることによって市民の取り組みにつなげていく必要があります。

事務局

行政の仕事、事業所の事業活動や社会的な役割との連携を保ち、さらに計画を推進するため皆さまのご協力をお願いいたします。